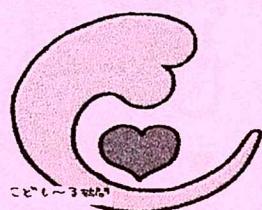


大和市 つどいの広場事業

こどもーる鶴間通信【No.187】



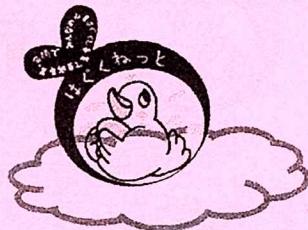
Insta



Mail



2023.4.1 こどもーる鶴間発行



☆子育て親子の交流つどいの広場の提供

☆子育てに関する相談・援助

☆地域の子育て関連情報の提供

☆講習会

利用対象者

★乳幼児（0～3歳未満）と親（保護者）

★妊婦さん

《運営》

認定NPO法人

地域家族しんちゃんハウス

4月の予定

《お問い合わせ》

電話：090-3685-2288(こどもーるフォン)

場所：イオンモール大和4F（ライトコート側）

日	月	火	水	木	金	土					
前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
保・保 30	保・経	栄・栄 助・助産師 看・看護師 子・子育てアドバイザー 経・子育て経験者 絵・絵本講師		☆こどもーる鶴間のライトはなぜ暗くしてあるか ご存じですか？ 赤ちゃんの脳活動に最適にしてあるからです。 大人は明るいのが良いかもしれません、赤ちゃんは違います。 光の刺激が強かったり多かったりすると興奮してしまうのです。			看・保 1				
保・経 2	保・経	保・保 保・経	保・経 保・子	保・経 保・子	保・経 保・子	保・経 栄・経	保・保 保・経	保・保 保・経	看・保 8		
保・保 9	看・保	保・保 保・子	保・保 保・経	保・経 保・子	保・保 保・子	保・保 栄・経	保・保 保・経	保・保 保・経	保・保 栄・経		
保・保 16	保・経 よみ	保・保 17	保・経 18	保・保 19	保・保 20	保・保 21	保・保 22	保・保 23	保・保 24	29(祝) 昭和の日	育
保・保 23	看・経 よみ	保・保 25	保・経 26	保・保 27	保・保 28	保・保 29	保・保 30	保・保 31	保・保 30	31	育

☆子育てアドバイザーの交代は14時です



管理栄養士による
栄養相談
(14:05～17:35)



保健師による育児相談
A(13:30～16:30)
B(14:05～16:05)



保育士による
育児相談
(13:30～16:20)



発育相談
(14:05～17:35)



保育士/ボランティア
による手遊び
(10:30～11:00)



絵本読み聞かせ
(10:30～11:00)

お知らせ

○各時間8人・入替制
(各時間毎に清掃を行います)

- ①10:20～11:20 ②11:35～12:35
- ③12:50～13:50 ④14:05～15:05
- ⑤15:20～16:20 ⑥16:35～17:35

皆様のお越しをお待ちしております♪

世の中に子育てほど尊い仕事はありません。私達の未来を創る事であり、未来の幸せを可能にする仕事だから。



～笑顔ではぐくねっと～2月のスキルアップ講座より

子育ての背景と支援のバージョンアップ



はぐサポートへのスキルアップ講座で、中央林間にある「むらた小児科」の相田夕佳保健師さんにお話いただきました。子どもファーストをモットーとされている小児科だからこそ、スタッフの一員として保健師さんもいます。



●まず一番忘れてはいけないこと、「愛着」の関係を作ること●

愛着とは、特定の母性的人物（親・養育者）との間に形成される強い結びつき（絆）です。自分が守られ大切にされている存在だと感じることで、安心感や信頼感が生まれ土台となり、それが周囲への関心に広がっていく、そういう子どもが社会に出てのびのびと動き回れるようになります。この愛着は、赤ちゃんの頃からの子どもとの相互関係で育っていく為、授乳の時に視線を合わせる（見る）・話しかける（聞く）・触れ合う（触る）を反応を見ながらやり取りすることから既にはじまっています。例えば、スマホを見ながらの授乳は孤食（個食）です。しかし出産をして初めて赤ちゃんに触れる方もたくさんいらっしゃいます。だからそんな風景を見かけた時は「ママのおっぱいおいしいよねえ」「しっかり抱っこされてママを見てもらえると嬉しいねえ」と、赤ちゃんに話しかけながらこうすると良いよというメッセージを伝える、お手本を見せる工夫が支援者には必要です。

●溢れる情報・偏った情報の中で混乱する育児を少し整理して助ける存在でありたい●

スマホ一つで色々な情報が手に入る現代ですが、ネット情報は自分の見たい情報に偏り自分にヒットしやすいものを無意識に選んでいる傾向があります。しかも情報が多くなるために、どれが正しいものなのかわからなくなってしまうという声をよく耳にします。コロナが流行して最初にまだどんなウィルスなのか何もわからなかつた時に「わからないって怖い」と改めて思い知りました。知らないことは不安や怖さになり、そのうちそれが大きくなると怒り（イライラ）にもつながります。子育ても同じで、知らないことだらけの中で大切な小さな命を預かるってとても大変なことです。だからこそ私たち支援者は、少しだけ見通しを立ててお話しするように心がけています。ネット上には自分の状況そのままのことは出ていません。だからこそ、信頼できる小児科や育て相談で具体的な見通しが持てると、ママパパはとっても安心します。



●子供の成長はもちろん、親の成長、家族の成長に寄り添う●

親（育児者）の状況を受け止めて一緒に考える、話を聞くことに心を寄せることが、支援にはとても大切です。支援の基本となる相談を1つ1つ丁寧にしていくことで、次の相談へと繋がることは少なくありません。『聞いてもらえる』という体験は安心感、信頼感、他者への共感を生みます。話することでスッキリするだけでなく、誰かに相談して良いんだと思うことで、自分からSOSを出せる力や自分で考えて決めることができるようになります。また、他人と関わるとこんなに気持ちが楽になるんだという体験が増えると良いなと思います。そして、クリニックでは子どもだけでなく親にも声掛けしたり褒めるよう心がけています。「親だからできて当然、当たり前」という周りからの期待値は今も昔も変わらず存在します。子どもが生まれて初めて親になったのだから、親だって初めてのことだらけです。「お母さん、お薬しっかり塗れたねー」「よく頑張ってるねー」と親の気持ちにも寄り添う意識を支援者が心がけることが、家族全体の成長に寄り添うことに繋がります。



●子育て事情の変化に伴い支援者にも変遷が必要● 昭和と今の台所事情の変化、共働き世帯の増加、スマホなどデジタル機器の普及など、社会の変化とともに、子育ても変わったことはたくさんあります。今や子育ては「伝承」ではなく「学習」とまで言われるようになっています。核家族世帯が多くなり、多世代で一緒に暮らしながら子育てせずに、自分で調べて実践する「学習」になってしま前にも、やはり地域でサポートしたりなるべく多くの人が子育てに関わることで「伝承」の部分も大切に残していくべきだと思います。

何か心配事があったら相談できる『誰か』や『場所』が1つでも多くあれば！という思い。

「地域で子育て」が広がっていくような環境設定を心がけて子育て支援をしていきましょう♡